

The English Department Newsletter

関東学院大学 国際文化学部 英語文化学科ゼミナール連合通信 第9号 ● 2021年3月12日発行

CONTENTS

- ①「ゼミナール通信」冒頭挨拶
本学客員教授ピーター・バラカン氏の講演会を開催!
- ②留学体験特集!参加者からのメッセージ
- ③書いてよかった!
卒業論文を書き終えて
- ④⑤コロナ禍をどう進むか
—就活・勉学・生き方—
- ⑥気鋭の起業家もコロナ禍と奮闘中!?
- ⑦公務員受験体験記
- ⑧目指せ、英語教員!—教育実習&教員採用試験体験談—
- ⑧English Campに参加しよう

「ゼミナール通信」冒頭挨拶

英語文化学科長 松村 聡子

思えば1年前の今頃は「Zoom」なるものの存在を知らなかったし、パワーポイントで作成したスライド資料を動画化するなんて考えたこともなかった。「Zoom?なにそれ?」「パワポ動画?へえ〜、そんなことできるんだ!スゴイ!!」という反応しかできなかった私が、まさかZoomを使って授業や会議をしたり、パワポのオンデマンド教材を作って配信したりするなんて、本当に1年前には思ってもみなかった。

コロナ禍は大学の授業のあり方を大きく変えた。毎週毎週、オンデマンドの教材づくりに追われ、会議資料の準備も相まって、食事や睡眠の時間を削ってPCの前で作業し続ける日々。大量のメールをさばくだけでも膨大な時間がかかり、眼はチカチカするし、首や肩はバリバリ。どんなに頑張っても仕事をこなそうとしても、日々新たな仕事はどこからか舞い降りてくる。一所懸命に作った教材も、学生がろくろく見ていないのではないかと疑心暗鬼に陥り、精神的に参りそうにもなった。

最初は苦痛しか感じなかったオンデマンドの教材作りだったが、学生が気になった箇所は何度も視聴できるなど、オンライン授業には対面授業にはない良い面があることも分かってきた。質問への対応もオンラインのほうが丁寧にできる場合もある。でもやはり、私にとって救いとなったのは、週に1回、ゼミ生たちの声を聞く機会があったことだった。ゼミナールはZoomやLINEの通話機能を使ってリアルタイムで行っていたので、ゼミ生に愚痴を言ったり、またゼミ生たちから学生側の話も聞かせてもらえたりできたことは、私にとってはありがたかった。そして気がついた。結局私は学生たちと話すことが好きなのだ。私は、なんだかんだと日頃文句ばかり言っているが、つまるところ大学の教員という仕事が好きなのだ。

コロナ禍が一日も早く終息することを心から願っている。でも、コロナ禍が終わっても、学生たちと接することができる機会を大切に、仕事を好きでいる気持ちを持ち続けていたいと思う。



2020年度9月の入学式にて

本学客員教授ピーター・バラカン氏の講演会を開催

2020年4月から国際文化学部の客員教授に就任されたブロードキャスターのピーター・バラカン氏の講演が、オンラインで開催されました。この講演会では、現在アメリカをはじめ世界中で大きなうねりとなっている社会運動「Black Lives Matter」を切り口に、アフリカ系アメリカ人が紡いできた抵抗の歌（プロテスト・ソング）の歴史について語っていただきました。2020年は、キング牧師が活動をしていた1960年代以来の黒人差別問題が表に出てきた年と言われています。そのような重要な年に講演会に参加し、この問題を素通りすることなく考えることができたと感じています。黒人差別の発端から詳しく歴史を振り返り、現代社会に至る経緯について解説するバラカン氏の講演によって、一曲一曲のプロテスト・ソングに込められた思いを丁寧に読み解くことができたことは、私にとっても初めての新鮮な経験でした。その中で印象に残った歌は Gil Scott-Heron の “Whitey on the Moon” です。この歌は曲名にある通り1969年に人類が月に到達した時の歌で、一見すると人種問題とは関係がないように思えますが、この歌は月へ行行った白人宇宙飛行士と地球にいる黒人の立場の違いを象徴しているそうです。私はこの歌を聴くまで、月へ行行ったことに対する負の感情が存在することはないと思っていました。しかし、視点を少し変えてみると、違った感じ方があることに気が付きます。この歌には、月へ行く前に地球に残っている課題を解決するべきだという思いが込められています。人種差別問題は、生を受けた全ての人にとって無視できない問題です。この問題に興味を持った方は、まずは音楽を聴いてみることから始めてもいいのではないでしょうか。バラカンさん、素敵なお講演、たいへんありがとうございました。



(英語文化学科3年 千々岩 優介)

留学体験特集！参加者からのメッセージ

ハワイ国際交流プログラム（アメリカ・ハワイ州）

昨年度の国際交流演習は、2020年2月4日から9日にかけて、ハワイ・ホノルルのカピオラニココミュニティカレッジ（KCC）を拠点として行われました。参加するために2019年の秋から、エッセイと面接試験を行い6人の学生が選ばれました。KCCでは日本について学んでいる学生の前で、パワーポイントを使用し、英語で日本文化についてのプレゼンテーションを行いました。その後、KCCの学生との話し合いを行ったり、実際に授業に参加させて頂きました。

KCCでは、カフェテリアでのランチやハワイの歴史など、日本ではできない大学生活を送ることができ、貴重な体験ができました。KCCで知り合った友人に、ローカルなパンケーキ屋やダイヤモンドヘッドなどを案内して頂きました。その友人とは今でも連絡を取っており、今度は私達が日本を案内してあげたいと思っています。それ以外にも自由時間があり、シュノーケリングなどができるツアーに参加したり、ワイキキビーチを訪れたり充実した時間を過ごすことができました。短期間ではありますが、皆さんも今まで学んできた英語を活かし、自分自身の可能性を広げてみませんか？

（英語文化学科4年 秋枝 美波）



リンフィールド大学（アメリカ・オレゴン州）への留学

■一番の収穫は自分の「やりたい！」に貪欲になれたこと

留学をして一番学んだことは、自分が学びたいこと、やりたいことに貪欲になるということです。アメリカ文化に直接触れたいと思い決意した留学は、自分の英語力不足を痛感したり、ルームメイトとの関係がうまく行かなかったり苦しいことから始まりました。自分がアメリカに来て本当にやりたかったことは何なのかと考え込んでいた時に、留学生向けの ESL の授業ではなく、アメリカ人の学生向けの授業を受けるチャンスにいただきました。自分の語学力についていけるか不安でしたが、新しい発見を求めて挑戦することにしました。現地の学生と共に学び、コミュニケーションをする中で、自分が気になることは納得するまで突き詰める積極的な姿勢を学びました。この授業を受けてから、今まで自分から行動を起こすことができなかつた私がルームメイトとの関係を改善する様に努めたり、イベントに参加して友達を作るなど、自分の「やりたい！」に貪欲になることができました。自分が生きてきた環境と全く違う場所での生活は、今後の人生にも影響する、自分を成長させる大きなきっかけとなったと感じています。

（英語文化学科4年 金澤 柚夏子）



■留学体験Q&A

Q1. 留学までの準備は何をしましたか？

井原さん：TOEFLの勉強です。留学までに応募条件のスコアを超えるという目標を立てて勉強しました。
坂本さん：応募条件のスコアを満たした後もTOEFLの受験し、英語にできるだけ多く触れておくようにしました。

Q2. いざ留学へ行ってみたいの感想は？ 大変だったことや楽しかったことなどをお聞かせください。

井原さん：大変だったのは、携帯電話の盗難にあったことです。警察への届出や銀行口座開設、保険会社への書類提出など、英語で手続きをするのが大変でした。楽しかったことは、ルームメイトとご飯を食べに行ったり映画を見たりしたことです。週末にランチに行ったり、出かけ先で色々な話をするので仲が深まりました。

坂本さん：大変だったのは、先生の英語が速過ぎて聞き取るのに苦労したことです。1ヶ月くらい経った頃、その先生のお話しする内容がある程度理解できるようになり、リスニング力が向上したと実感しました。楽しかったことは、ルームメイトの実家に招待されたことです。2泊させていただき、ミュージカルやコストコに連れて行ってもらいました。ルームメイトのお母さんやその友達とも話すことで、アメリカ特有の文化を知ることができました。

Q3. これから留学へ行く人に一言お願いします。

井原さん：英語漬けになって生活できる経験はなかなかないので、大変なこともあると思いますが楽しんで頑張ってください。

坂本さん：留学は、慣れない環境の中で戸惑うこともある一方、新しい発見もたくさんあるので良い経験になると思います。宿題の量は膨大なので上手く計画を立てて楽しんで下さい！

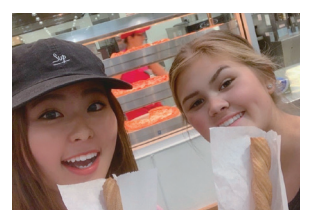
（取材協力：英語文化学科3年 井原 紗江・坂本 莉紗／取材と文：英語文化学科3年 千々岩 優介）



留学修了証書と井原さん



ホストファミリーと井原さん



ルームメイトと坂本さん（コストコにて）

◇新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、留学プログラムの応募中止や延期がされる場合があります。詳細は大学より随時お知らせします。

書いてよかった！ 卒業論文を書き終えて

電子書籍の試し読みがお勧め！（英語文化学科4年 桃野裕稀さん）

卒業論文を書いて良かったことは、大学で学んだ集大成を卒論で表現できたことです。また、自分の興味のあるテーマを研究・分析できたことや、参考文献から多くの知識を得られたことも卒論を書いて良かったことです。映画をメインテーマにしていたため、卒業論文を書く前には、様々な映画の鑑賞やそれに関わる文献をインターネットなどで探したりしていました。卒論の流れや構成が曖昧であったため、先にメインの映画や文献から決めていきました。参考文献は、コロナの影響もあり図書館には行かず、ほとんどインターネットやアプリを利用して探しました。特に便利だったのはKindleの試し読み機能でした。目星をつけた文献の目次や冒頭部分などを確認し、自分が求めている文献を探すことができました。

（取材と文：英語文化学科4年 向山 実穂子）



限られた時間で自分の興味を追究する（英語文化学科4年 吉田ひとみさん）

Q. 卒論の内容を教えてください。

A. スヌーピーで有名な『PEANUTS』の漫画の日本語訳版における明示化の発生とその効果について研究しました。

Q. なぜそのテーマを選んだのですか？

A. 中学生の頃『PEANUTS』を初めて読み、原書の英文には書いていないことが日本語訳に掲載されていることに気付き、翻訳に興味を持ちました。そして『PEANUTS』を題材に、初めて興味を持った現象である「明示化」について研究したいと思いました。

Q. 必須ではないのになぜ卒論を書こうと思ったのですか？

A. 大学での4年間の勉強の集大成として、「卒論」という形に残るものを作成しようと思いました。大学生は卒論を書くのが当たり前だと思っていましたし、それに、書いたらカッコいいかな、と（笑）。

Q. 卒論を書く上で大変だったことは何ですか？

A. 今年度は卒論演習がオンライン開講だったので、指導してもらえる時間も限られましたし、1つ質問するのにも時間がかかり大変でした。また、資料集めも大変でした。大学図書館は自宅から遠いため、地元の図書館を利用しましたが、翻訳に関する資料が少なく、手に入らない資料は購入しました。卒論を執筆している友人との情報交換も頻繁には行えず、締め切りギリギリまで書き切れるか、内容は十分か、など不安でいっぱいでした。

Q. 楽しかったことはありますか？

A. 集めた資料やアンケートの結果を通しての考察が楽しかったです。アンケート調査自体も楽しく、インターネットの投票フォームを利用し、アンケートを行いました。質問文の作成や回答をお願いする呼びかけも大変でしたが、様々な意見をいただきとても参考になりました。アンケートに協力していただいた友人から、「興味深い研究内容だ」「頑張れ」などと声をかけてもらった時はとても嬉しかったです。

Q. 卒論を書いてみてどうでしたか？感想を教えてください。

A. 初めての論文執筆は慣れないことばかりで、長い時間試行錯誤しながら執筆するのは大変根気が必要でしたが、論文が完成した時は達成感を感じました。4年間英語を学んでも、まだまだ勉強不足だと感じました。翻訳への知識を深めることができ、とても楽しかったです。

Q. 卒論の執筆で学んだことはありますか？

A. 先行研究を集めるように言われた時は、なぜ集めるのか理解が追いつきませんでした。卒論を書き始めると、自分と似た研究についての論文を読むことは必要なのだと学びました。

Q. 卒論を書くか迷っている3年生へメッセージをお願いします。

A. 卒論はレポートと違い、かなりの量を書かなければならないため不安を感じる人は多いと思います。しかし、自分の興味のあるテーマについて研究することはとても楽しいですし、自分の大学生活の集大成として書いてみることをお勧めします。

（取材と文：英語文化学科4年 上原 優衣）



特別企画 コロナ禍をどう進むか — 就活・勉学・生き方 —

スランプになったら、まず「なりたい自分」を考える

幼い頃から福岡に住む祖父母を訪ねるために、飛行機に何度も乗る機会があり、その事から飛行機が大好きになり、将来は飛行機に関わる仕事に就きたいと思っていました。そして国内に限らず国外に行かれるお客様のサポートをしていきたいという思いが強くなり、航空業界だけではなく旅行業界にも興味を持ち始めました。しかし昨年度の2月頃から、新型コロナウイルスという正体不明のウィルスの影響で、私が目指していた業界は大打撃を受けました。それでも3月からのエントリーは実施しており、少しでも多く可能性を広げるためにあらゆる会社にエントリーしました。しかし現実には厳しく「日程を見合わせておりますので、しばらくお待ちください」という連絡が送られてくるばかりで、スーツを着用し会社を訪れることもないまま6月になりました。そしてエントリーしたほとんどの会社の選考は中止になり、結果が分からない選考や挑戦することすらできなかった選考もあり、とても悔しい思いから涙を流したこともありました。そんな時、就職支援センターの方や先生方や友人が力になってくれました。そして気持ちを切り替え、新たに就職活動を始め、無事に内定をいただくことができました。新型コロナウイルスはこれからの就職活動にも大きく影響すると思います。だからこの時代を生き抜く就活生として、まずはどんな人になりたいか考えてみてください。そうすれば自分が最初に志望したのとは違う業界もみえてきます。



(英語文化学科4年 秋枝 美波)

コロナ禍の中での就活は視野を広げて

私は観光に携わるお仕事をしたいと思っていましたので、旅行やホテル業界に絞って就職活動を行っていました。特にホテル業界の選考段階には途中でホテル見学があるところも多く、面接官がホテルの雰囲気に合わせているか志願者を見たい、接客業が中心となる為実際に志願者と会って面接を行いたいと考えるようです。このため4月から5月の緊急事態宣言の間はオンラインへの切り替えもなく、選考延期となってしまいました。そこで私は緊急事態宣言の間でも説明会を行っている企業を探してオンラインで話を聞き、興味を持った会社にエントリーを行い、希望していた業界ではありませんでしたが、(交通・運輸関係で)内定を得て、ひとまずは安心しました。緊急事態宣言が解除された後、志願先の企業から連絡が来ましたが、旅行業界やホテル業界のほとんどが選考中止となりました。さらに求人再開した会社にエントリーしてもコロナ禍によって採用数を減らしたため、不採用という結果になりました。



中野さんの就活カバンと就活手帳

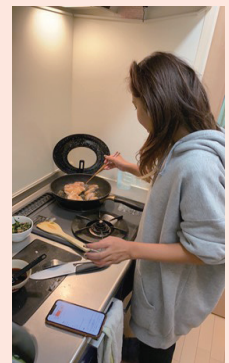
私の友達には主に営業職を希望していましたが、コロナ禍によって貰っていた内定を急に取り消され、またその後は新卒採用が終わっている会社が多かったので、全てやり直しになり、手当たり次第に他の職種の説明会に参加して選考を受けることになり、精神的にも苦労したと話していました。

的を絞るすぎなのではなく視野を広げて世の中にはどんな業界があるのか深く掘り下げながら業界研究を行う事が重要だと思います。

(英語文化学科4年 中野 未紗子)

帰省しても家賃を引き落とされ続けた辛さ

大学生生活最後の一人暮らしは、一瞬にして地獄に突き落とされたような毎日だった。大学1年生の頃から続けてきたアルバイトは削られ、収入は激減した。食費や生活費にも影響が出始め、光熱費の支払いさえも危うい状況に陥った。大学は休校になり、オンラインの授業も開始の目処が立たないまま時間が過ぎるばかりだった。生活費の出費を抑えるために地元沖縄へ帰省せざるを得なかった。しかし、実家に戻って食生活費は楽になったものの、横浜に借りていた私のアパートは毎月家賃が引き落とされ、その上、光熱費の基本料金も支払い続けることに変わりはない。時機を見て、横浜に戻ることを何度も考えたが、コロナの収束は先が見えず、一人暮らしの中で万が一感染した時のことを考えると、戻ることはできなかった。卒業を前にアパートを引き払うため、複雑な思いで横浜に戻らなければならない。しかし、大学や慣れ親しんだ横浜は、私の人生の中で最高の思い出として刻まれている。



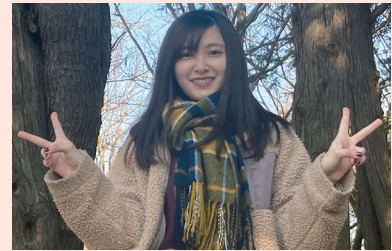
(英語文化学科4年 喜納 萌々子)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、2020年度、多くの4年生は計画の変更を余儀なくされました。今回は特集として、そんな4年生の経験と在学生に対するアドバイスについて、皆さんに語ってもらいました。

会社を訪問せずに内定で驚きと不安も

私は昨年3月から本格的に就職活動を始めましたが、同時期にコロナウイルスの流行も始まり、参加を予定していた説明会は続々と中止となり、不安と焦りを感じていました。コロナの流行とともにリモート面接が普及しましたが、ZOOMの使い方からリモートならではのマナーなど、慣れないことだらけで苦労することもありました。緊急事態宣言明けには対面での採用活動を再開する企業も増えましたが、私が選考を受けた企業では、リモートと対面の割合は半々であったと感じています。

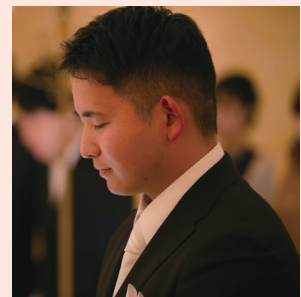
4月から入社予定の福祉用品の専門商社では、説明会から面接、筆記試験まですべてリモートでの開催となり、一度も会社を訪問することのないまま内定をいただきました。会社を一度も訪れずに内定をいただけるなんて、内心とても驚いています。直接見学ができない代わりに、内定後にリモートでの内定者懇談会を定期的に開催していただくなど、企業側からもサポートしていただいています。実際の雰囲気や労働環境を自分の目で実際に見ていないため不安な気持ちが残りますが、精一杯頑張りたいと思います。



(英語文化学科4年 吉田 ひとみ)

受験での最大の苦痛は孤独であること

私がコロナの影響を受けたのは、2020年の3月のことです。一つ目の公務員試験まで残り2か月。ラストスパートをかけるタイミングにも関わらず、新型コロナウイルスの影響で大きく勉強リズムを崩すことになりました。電車を利用し予備校まで通っていましたが、感染リスクを少しでも避けるために自宅での自習に切り替えました。他にも、度々勉強に利用していたカフェや図書館などの施設を利用することも避け、「ステイホーム」の生活が始まりました。1日以外に出るのは毎日30分行っているランニングの時だけ。朝起きてから夜寝るまで、毎日机に向かっていました。勉強時間を確実に確保できていたことは不幸中の幸いでしたが、誰とも会話をすることもなく、試験までの時間をただ一人で不安と向き合う。「もし試験が全部不合格だったら。今年就職先が決まらなかったら。」そんなことばかりが脳裏をよぎっていました。合格のために最後まで諦めず努力を重ね、何とか合格を得ることができましたが、「もしあの時に諦めていたら。あの時、不合格だったら。」そう思うだけで、今でもゾッとします。



(英語文化学科4年 波多野 洋)

気鋭の起業家もコロナ禍と奮闘中！？

今年度春学期の「KGUキャリアデザイン入門」内で本学国際文化学部客員講師の大森峻太氏によるオンライン講演会が開催されました。

インバウンド起業家であり本学部の客員講師を務める大森峻太氏による特別講演「僕が出会った世界」および「インバウンド業界【基礎講座】」がオンラインで開催されました。前者では、大森さんご自身の海外での経験や、現在の事業に至るまでの経緯、そして今後インバウンド業界がどうなっていくのかをお話いただきました。大森さんが私達学生に伝えたいことは、何かをやるのに遅すぎることはないから、まずは行動すること、さらに情報や体験にお金をかけること、そしてインバウンド業界には若者向けのチャンスがたくさんあるということでした。模試の英語の偏差値が29だったという大森さんは、英語を学ぶために、とにかく外国人に話しかけたり、海外でフリーハグを行ったりして英語を学んだそうです。そして、帰国後に始めたボランティア観光ガイドで注目を集め、それを事業化することで、今ではメディアに取り上げられたり、講演会を行うようになったということです。「無料で情報が得られる今の世の中だからこそ、有料のモノが大事になってくる」—現在はコロナの影響でインバウンド業界は苦しい状況にあるが、これも一時的なもので、これからこの業界を目指すのはチャンスであると話してくれました。実際に大森さんはこのような状況下でも、YouTubeチャンネルを開設したり、東京・渋谷区観光協会の観光フェローに就任されるなど、活躍の場を広げていらっしゃるということです。インバウンド業界について知る貴重な機会でした。大森さんありがとうございました。

(英語文化学科4年 永井 敦也)



公務員受験体験記

東京消防庁と横浜市消防局をダブルで合格した岸本さんと波多野さんの受験体験です。公務員を目指すひとはぜひ参考にしてください！

英語対応の救急隊員へ…岸本隆一郎さん

私は東京消防庁と横浜市消防局の2つの消防本部で最終合格を得ることができました。私が消防を志望したきっかけは、英語対応の救急隊員に興味があったからです。「日本人だけでなく日本に訪れている多くの外国人に対しても、命の安全を守るだけでなく安心感を与えられる救急隊員になりたい。」そう思い、試験に臨みました。

大学3年の春から予備校に通いながら勉強を始め、自宅で学習を行う時は朝の8時半から21時半まで、休憩を挟みながら取り組んでいました。消防の試験では自然科学と呼ばれる生物や化学などの理系科目の比率が高いため、その分野の対策を重点的に行いました。勉強する上での工夫としては質より量を意識しました。公務員試験は勉強をした分だけ得点に繋がっていくので、勉強に時間を多く費やすことにはなりますが、私は得意科目を伸ばすというよりも苦手科目の改善をしていくことが大切だと思います。

実際の試験では筆記、小論文、他にも2次試験で体力試験と面接がありましたが、準備に力を入れていたため、どれも落ち着いて自分の実力を存分に発揮することができました。小論文では、他の人が書いた論文を読むことで、自分に無かった考え方や意見を取り入れる練習をしていたため、考え方の幅を広げて書くことができました。また、面接では聞かれた質問にだけに簡潔に答え、余計な話をしないように意識しました。

私はこれから厳しい世界へと飛び込んでいきますが、救急隊員として人の命を守るという仕事に誇りを持って「需要のある人間」になれるよう頑張っていきます。学生の皆さん、大変なこともあると思いますが、勉強頑張ってください。

(英語文化学科4年 岸本 隆一郎)

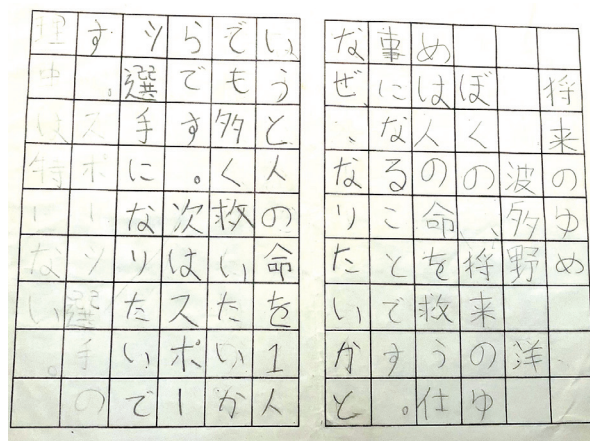


運動部所属で限られた時間を有効に使う…波多野洋さん

私も東京消防庁と横浜市消防局の2つの消防本部で最終合格を得ることができました。幼い頃から消防という職業に憧れを持っていたので、合格の結果を知った瞬間のことは今でも鮮明に覚えているほど嬉しかったです。勉強を本格的に始めたのは大学3年の11月頃からです。当時、体育会系の運動部に所属していたために、なかなか勉強時間を確保できませんでしたが、2月に予備校に通い始めたのをきっかけにスパートをかけました。試験までの時間が無いため、いかに効率良くポイントを押さえ、得点に繋げていくかを意識していました。空き時間には、年号や公式、英単語に目を通し、時事問題を対策のためにアプリや図書館の新聞にも毎日目を通すようにしていました。公務員試験では時事問題は配点が高く、内容によっては筆記や小論文、そして面接にも関わってくる重要な科目なので、国内のみならず世界の時事にも目を通しておくと思えます。あとは、文章理解や資料解釈などの長文問題でいかに時間をかけずに解けるかが試験のカギになるので、とにかく練習問題を沢山こなすように押さえる訓練をしておくことも大切だと思います。

時には、勉強を続ける中で疲労が溜まる時や気が乗らないこともあると思いますが、そんな時は計画的に休みを取ったり自分の趣味などに時間を当てるなどしてリフレッシュするのも良いと思います。私は4月から社会という新しいステージへ進みますが、何事にも臆することなく、常に志高く頑張っていきたいと思えます。これから試験を受ける、受けてみたいと思っている学生の方々、試験勉強を頑張ってください。応援しています。

(英語文化学科4年 波多野 洋)



波多野さんが小学校時代に書いた作文

*sit difficile; experiar tamen.
per asprera ad astra.*

目指せ、英語教員！ — 教育実習&教員採用試験体験談 —

今年度、コロナ禍で普段とは異なる教育実習と教採を経験した3名を取材し、体験談を語っていただきました。

今年度はコロナ禍の中、例年とは異なり、ほとんどの学生が秋学期に教育実習を行いました。また、例年よりも短い期間の学校での実習となった方も少なくありません。こうした異例の教育実習を経て、来年度から教壇に立つこととなった3名の学生、堀越愛加さん、向山実穂子さん、山田晃平さん(いずれも英語文化学科4年)を招き、教育実習及び教員採用に関する対談を行いました。

Q. 皆さんが教育実習に行くにあたって、特に準備に力を入れたことは何ですか？

堀越：あんまりやってなかったですね(笑)でも、やっておいた方がよかったことを挙げるなら、指導案の書き方などを事前に準備しておくべきだったと感じました。

向山：板書の練習をしていました。でも、実習校での板書の仕方があったので、あまり練習していたのを活かすできなかったのが本音です。

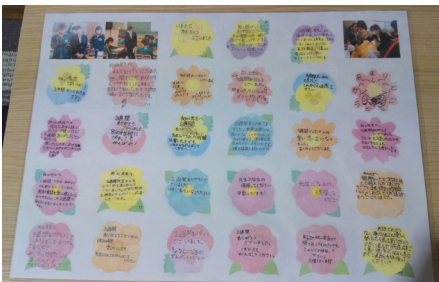
山田：ものすごく良く準備をして実習に向かいました。実習で教える教科書の範囲は丸暗記したし、板書の書き方、英語が好きではない生徒に対してどのように教えれば響くか事前に考えていました。

Q. 実習では、生徒に実際に英語を教えたわけですが、その際に工夫したことは何ですか？

堀越：パワーポイントを使うことですね。英語の授業ではそれを活用すると効率良いと思っています。単語にしても、イラストや音を重ねて覚えることでイメージとして頭に残りやすくすることが狙いでした。

向山：中学1年生を教えたので、フラッシュカードを自ら作り英語入門編のスタートとして分かりやすい授業づくりを意識しました。

山田：生徒の英語力を向上させるのはもちろん、英語の楽しさ、英語を通しての学びを提供したいと思い、授業をしていました。生徒が英語学習から得た知識を人生の役立つツールにすることを僕にとっての目標としていました。



Q. 教員採用試験を受けるにあたって、どのような勉強や対策が役立ちましたか？

堀越：私立の学校で仕事をしたいと考えていたので、友人や吉田先生に助言をもらって模擬授業対策をしました。

向山：公立・私立の試験両方を受けましたが、まずは公立の試験対策を3年生の春休みから始めました。しかし、芳しい成績を残せなかったのもっと早めに行うべきだと思いました。

山田：私立に就職するつもりで対策を行いつつ、将来のキャリアを逆算して対策をしました。

Q. 大学で勉強しておいて良かったこと、勉強しておけば良かったことは何ですか？

堀越：文法構造を学習する講義では、中高生の時には学習できないことにも触れ、さらに視野が広がったと思います。英検準1級をとるように学習をしておけばよかったと思います。

向山：英語音声学は教職でも発音指導に役立ちました。異文化をルーツに持つ学生と交流する講義は、今後の生徒との関わりの中で役立つものだろうと思います。

山田：サッカーと英語の学習に時間を使うことができたと思います。英検1級やTOEICの学習をしておけばよかったと思います。



English Campに参加しよう

English Campに参加し、説明会にもご協力いただいた宮重綾奈さんから、皆さんへのメッセージです。

English Campをご存じですか？私は1年次にEnglish Campに参加しました。English Campとは、3日間英語のみを使ってネイティブの先生と様々な活動を行う合宿のことで、例年、夏季休業中に国内で行われます。私がこのCampに参加したきっかけは、大学生生活で自分が頑張ったと胸を張れる思い出を作りたいと考えたこと、そして仲間と協力して活動することに興味を持ったからです。Campでは、グループごとに台本作りから行うドラマコンテストや暗唱スピーチコンテスト、英語映画鑑賞など、仲間と協力する活動が多くあります。そのため、学生同士の仲は深まりますし、先輩と交流する良い機会でもあります。大学の講義では経験できない活動はどれも楽しく、英語をスキルアップすることができます。私が一番印象に残っている活動はドラマコンテストです。テーマ、セリフ、小道具をグループで一から決めるので大変でしたが、自分たちのアイデアだけで作品を作り上げるため、とてもやりがいを感じました。また、活動を通して、英語のイントネーションやアクセントをネイティブの先生から教えてもらえることもCampの強みです。

今、新型コロナウイルスが猛威を振るい、気軽に海外に行くことができない状況になっています。私は、国内でネイティブの先生と英語学習ができるEnglish Campは絶好のチャンスであると思います。興味があっても参加する勇気が出ない方もいることでしょう。私も初めはそうでした。しかし、自分をハードな環境に置くことで得られるものは必ずありますし、私自身、参加したことで友達も増え、先生とも親しくなれCampが終わった後も英語学習で手助けをいただくこともあります。そして何よりも、自分の伝えたいことを自信をもって英語で伝えられるようになったことは大きな収穫でした。私のこの記事が、Campに参加するか迷っている方の背中を押せるものになれば嬉しく思います。

[English Camp説明会*でのQ&A]

Q. English Campの単位は、セメスターごとに決められている履修登録制限単位に含まれますか？

A. 含まれます。English Campの科目名称は国際交流演習ⅢとⅣで5群(専門演習)の科目です。

Q. 国際交流演習ⅢとⅣはセットで履修しなくてははいませんか？

A. セットで履修する必要があります。春学期に開講される国際交流演習ⅢでCampの準備を進めます。その単位を取得したうえで国際交流演習Ⅳ(English Camp)に参加する必要があります。

*2020年12月10日(木)12:30~13:00にK-211教室、およびZOOMで開催された。

(英語文化学科2年 宮重 綾奈)

◇新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、本プログラムの中止や延期がされる場合があります。詳細は大学より随時お知らせします。



ゲームナイト、ジェスチャーゲーム



ネイティブの先生とのフリートーク

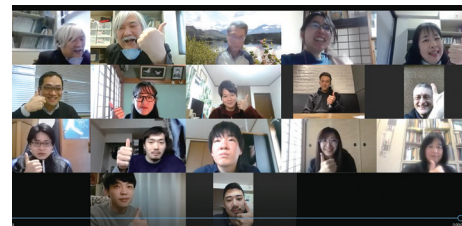


英語ドラマコンテストでのコマ

英語文化学科ゼミナール連合会

Vista No.9

▼ゼミナール通信第9号をお届けします。コロナ禍での学生たちの頑張りを結集しました。会議もコロナ禍でオンライン。Vistaも今回は特別に、「卒業する私たちから在学生の皆さんへ」というテーマで、編集に携わってくれた4年ゼミ長のメッセージを集めました。(識)▼学生生活は今しか送れない大切な時間です。勉学に励み、友人と沢山の時間を過ごしてください。そして壁にぶつかった時には、その友人や先生たちが必ず力になってくれます。こんなご時世でしか送れない悔いのない学生生活を送ってください！(みなみ)▼大学生活で、勉強を頑張ることももちろんですが、遊びも精一杯いろんなことをして大学生という貴重な時間を楽しんでください！(あき)▼学生の4年間は一瞬です。よく目にする言葉だとは思いますが、本当にその通りだと実感しています。とにかく何でもいいので、今ある目の前のことで夢中になれることに全力で取り組んでください。可能性は無限大です。(おに)▼よく言われると思いますが、卒業まで本当にあっという間なので、したいことをして、やりたいことをやって、残りの大学生活を楽しんでください！社会人になりたくないよー笑(あつや)▼コロナ禍で苦労した就職活動について記事を書きました。これから就職活動を始める後輩達の参考になれば嬉しいです。海外留学やサークル活動など大学ならではの経験をいっぱいして下さい！(みさこ)▼私達は毎日が「選択」の繰り返しです。例えば今が長くても卒業は瞬間に訪れます。どうか後悔のない選択を。そして人生に一度しかないこの4年間をどうか大切にしてください。(波多野)▼自分が行えることを最大限行うことで、その後の進路もよりよいものになると思います。また、自分で悩まず、先生方に相談することもきっと良い結果につながると思います。(みほこ)▼皆さんには大学での貴重な時間を有意義に過ごしていただきたいと思っています。一人ひとり価値観が違うので何をすれば正解ということはないと思います。自ら考え行動して4年間を振り返った時に充実したと思える時を過ごしてください。(ヤマ)▼この世界で「チャンスを掴んだ人」はそれぞれの「掴むべきタイミング」で「チャンスを掴んだ人」だと思います。なので皆さんも自分自身の「タイミング」を見極めて、これからを充実した時間にしてほしいと思います！(シゲ)▼初めて記事を書きました。難しかったけど面白かった！思い返してみると1年間いろいろなことがあったなあ…と実感しました。学生生活最後の1年、コロナのせいで何もできず残念でした。早く終息してくれ〜(とまと)▼無事発行！次号はぜひ集合写真が撮れることを祈りつつ……ご協力いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。(も)



The English Department Newsletter Vol.9 (英語文化学科ゼミナール通信第9号) 2021年3月12日発行

編集：関東学院大学 国際文化学部 英語文化学科

編集協力：関東学院大学 国際文化学部 英語文化学科ゼミナール連合会

〒236-8502 横浜市金沢区釜利谷 3-22-1 TEL. 045(786)7179 URL : <http://www.univ.kanto-gakuin.ac.jp>

印刷所：株式会社なまためプリント 〒231-0006 横浜市中区南仲通 4-43 馬車道大津ビル TEL. 045(641)8080